

第 118 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2006 年 7 月 3 日(月) 18 時 00 分~19 時 30 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 亀山 洋一郎 氏 (愛知学院大学院歯学部長 病理学講座・教授)

タイトル: 歯周組織, 顎関節, および培養歯胚に関する実験的研究

1: 歯周組織; ラットにおける歯肉の機械的損傷による歯根の吸収

ラットの臼歯の近心歯肉溝から針状の器具を挿入して歯肉および歯根膜組織に機械的損傷を与え、歯根の吸収状況を病理組織学的および電子顕微鏡的に検索した。破歯細胞は、1 日目から 7 日目までその数を増やし、その後は減少していた。吸収部の面積は実験期間中、経時的に増加していた。電子顕微鏡的所見では、破歯細胞は細胞内小器官とラッフルド・ボーダーおよびクリアー・ゾーンなどの発達の程度から 3 のタイプに分けることができた。以上の結果から、歯肉、歯根膜に機械的損傷を加えると、破歯細胞が出現して歯根の吸収が起きることが解った。

2: 顎関節; 発育中のラットの下顎頭におよぼすシクロホスファミドおよびアドリアマイシンの影響

出生後 1 日目のラットにシクロホスファミドを投与して、下顎頭におよぼす影響を検索した。その結果、下顎頭の増殖層と分化層に細胞数の減少や層の厚さの減少が認められた。また、同様にアドリアマイシンを投与して下顎頭における変化を検索した。その結果、下顎頭の表層、増殖層および分化層で細胞数の減少や層の厚さの減少がみられた。これらのことから、発育中のラットに薬剤を投与すると増殖層、分化層に変化が起きることが判明した。

3: 歯胚; ラットの移植歯胚におよぼす ENU, Trip-P-2, MeIQx, および TGF- $\beta$  の影響

ラットの移植歯胚の発育過程におよぼす化学的発癌物質のニトロソ化合物の ENU、ヘテロサイクリックアミンの Trip-P-2, MeIQx および細胞増殖因子の TGF- $\beta$  の影響を検索した。その結果、移植歯胚では、ENU, Trip-P-2, MeIQx, および TGF- $\beta$  の影響により、エナメル基質や象牙質の形成が不規則になるとともに、歯原性上皮細胞の増殖と歯原性細胞による嚢胞や嚢胞様空隙の形成が引き起されることが判明した。

当日は、以上のような内容についての研究結果について、興味深いお話がお聞きできると思います。

担当: 硬組織疾患制御再建学講座 川上 敏行